

7. 河川空間の利用状況

7.1 河川の利用状況

7.1.1 空間利用状況

平成 15 年度における空間利用実態調査では、物部川の年間利用者総数（推計）は約 19 万人であり、直轄管理区間の沿川市町村人口からみた 1 人あたりの年間利用回数は約 2 回である。

利用形態別では、散策の割合が 61%と最も多く、次いで水遊びが 17%と続き、釣りは 16%、スポーツの利用は 6%となっている。利用場所別では、高水敷が 44%と最も多く、次いで水際が 25%となり、堤防は 22%、水面は 7%である。

表 7.1.1 物部川の年間河川空間利用状況

区分	項目	年間推計値（千人）		利用状況の割合	
		平成12年度	平成15年度	平成12年度	平成15年度
利用形態別	スポーツ	4	12		
	釣り	110	31		
	水遊び	75	33		
	散策等	129	113		
	合計	318	189		
利用場所別	水面	112	17		
	水際	72	47		
	高水敷	79	83		
	堤防	54	41		
	合計	317	188		

出典：平成 12・15 年度物部川河川水辺の国勢調査（空間利用実態調査）

7.1.2 内水面における漁業権

物部川の内水面漁業権は、物部川漁業協同組合に設定されている。漁業協同組合の内水面漁協状況を表 7.1.2 に示し、漁業権の指定範囲を図 7.1.1 に示す。

表 7.1.2 物部川の内水面漁協状況

漁業種類	漁業の名称	漁業時期
第5種 共同漁業	アユ漁業	5月15日から12月31日まで
	コイ漁業	1月1日から12月31日まで
	ウナギ漁業	1月1日から12月31日まで
	アマゴ漁業	周年
	モクズガニ漁業	9月1日から11月30日まで

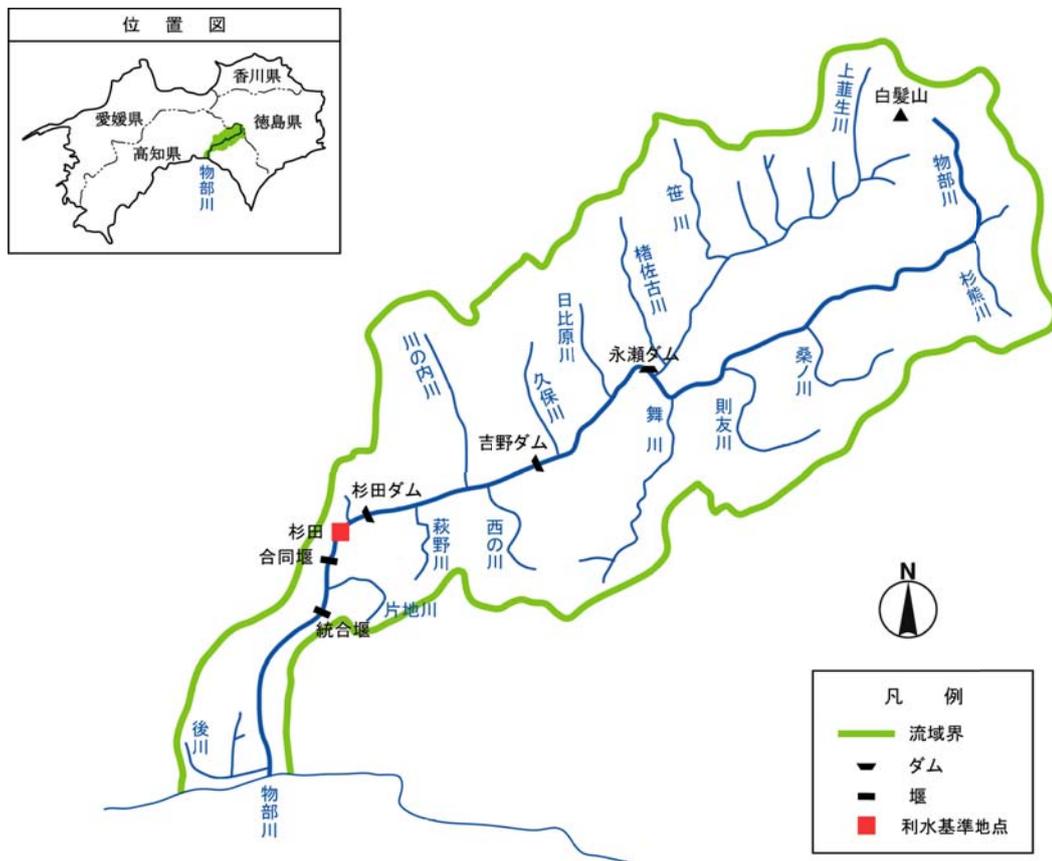


図 7.1.1 漁業権指定範囲（物部川本川および支川全域）

7.2 高水敷の利用状況

物部川の直轄管理区間における高水敷は、統計報告によると約 1,272 千 m² で、約 90% を国有地が占め、残りが私有地となっている。

国有地では公園緑地が全体の 5% を占めている。私有地は、その多くが耕作地として占められている。

高水敷の公園・運動場は、地域住民のコミュニケーションの場、憩いの場としての利用を始め、スポーツ大会やイベント等の会場としても盛んに利用されている。また、学校児童による水質調査や地域住民の協力による一斉清掃等、様々な活動が行われている。

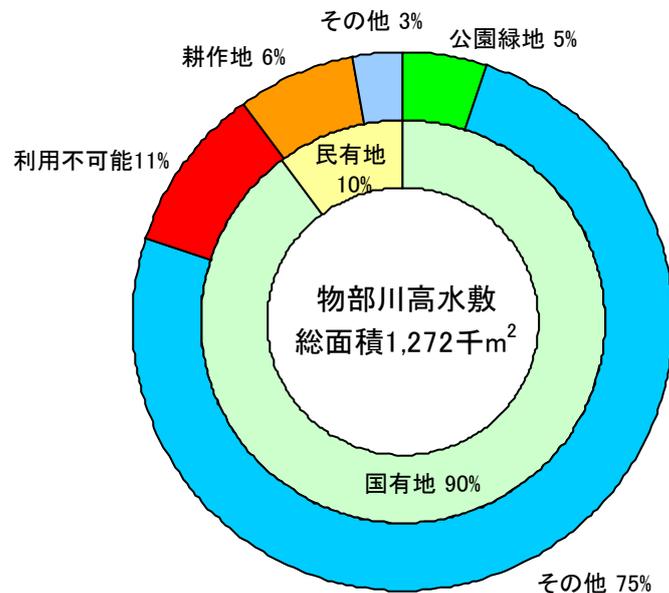


図 7.2.1 高水敷の利用状況

物部川河川敷では、花火大会、ゲートボール大会などのイベント、スポーツレクリエーション等市民の憩いの場として利用されている。また、深淵親水テラス・スポーツ広場、山田堰跡に作られた物部川緑地公園等が整備され、歴史的な景観・風情、自然を楽しむ空間となっている。

物部川は「ふるさとの川整備河川」に指定されており、河川本来の自然環境の保全、周辺の環境との調和を図り、地域がまちづくりと一体となって4地区（町田・深淵・吉原・久枝地区）で河川整備が行われ、良好な水辺空間が創出されている。

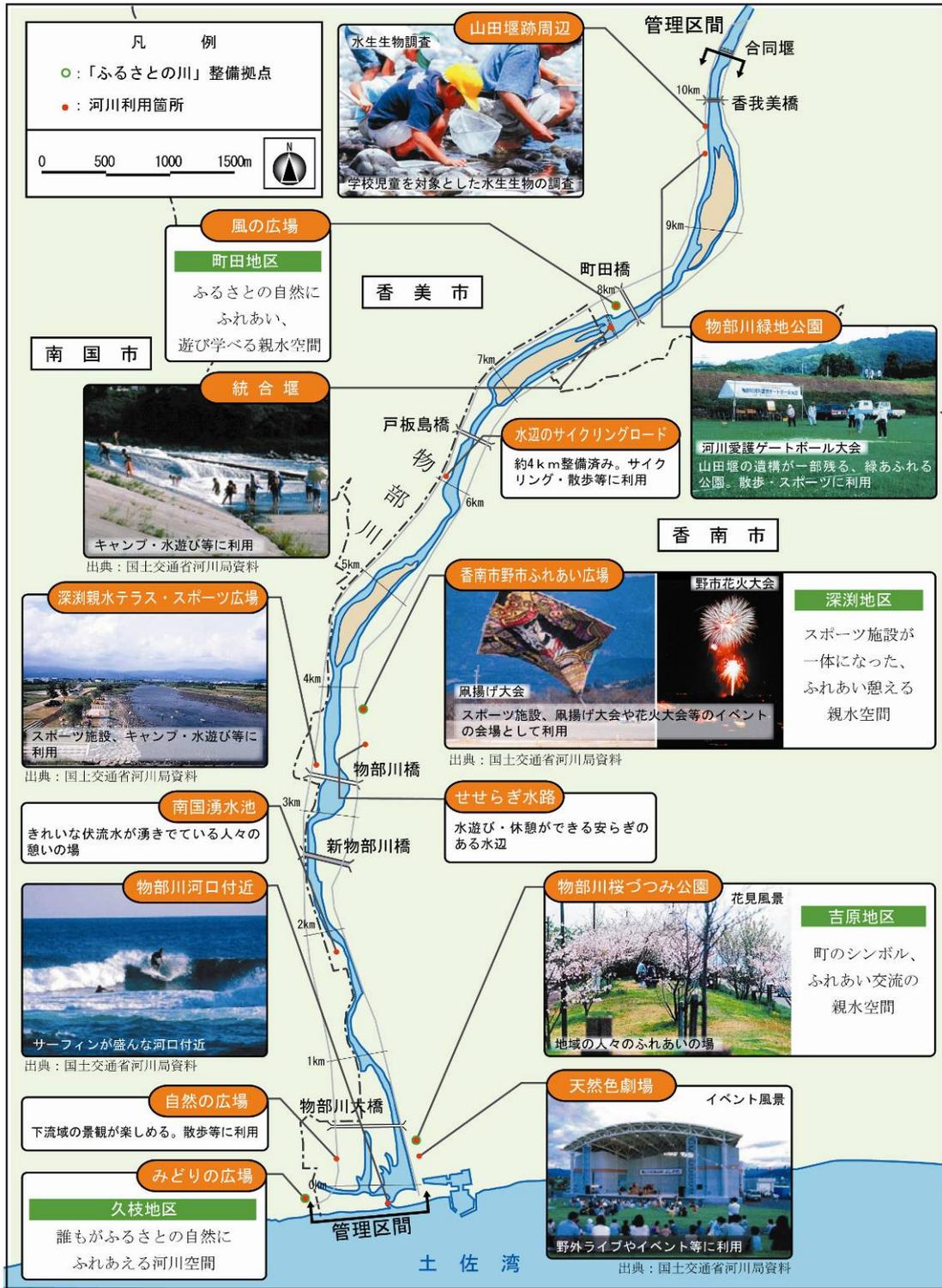


図 7.2.2 物部川の河川利用状況

香美市（旧土佐山田町）では、神母ノ木大川祭りが開催されている。香南市の野市ふれあい広場では、大凧揚げ大会、納涼祭、花火大会が開催されている。

最下流部の左岸側には桜つつみや天然色劇場が整備され、野外ライブや港まつり等が開催されている。

のいち・ものべ村交流会議実行委員会や物部川流域ふるさと交流推進協議会による物部川の探索やイベントも、毎年行われている。

表 7.2.1 物部川における主なイベント

イベント名	実施月	実施場所	内容
水生生物調査	11月	物部川 (山田堰跡)	学校児童による生物・水質等の調査
川はともだち、川はいのち	7月	物部川下流 (横瀬)	川遊び体験学習
野市花火大会	7月	物部川河川敷 (香南市野市ふれあい広場)	花火大会等
河川愛護月間一斉清掃	7月	物部川	一斉清掃
神母ノ木大川まつり	8月	物部川河川敷 (香美市神母ノ木)	踊り、花火等の町民納涼祭
港まつり	8月	物部川河口域 (天然色劇場・吉川漁港周辺)	踊り、花火等の町民納涼祭
旧正凧揚げ大会	2月	物部川河川敷 (香南市野市ふれあい広場)	100畳の大凧揚げ等
物部川ジャンボリー	4月	物部川河川敷 (香美市)	環境問題を身近に考えるためのイベント

7.3 河川環境管理基本計画

(1) 物部川水系河川環境管理基本計画の理念

物部川の変化に富んだ自然の美しさと清き流れは、人々にやすらぎと自然の恵みを与えてきた。その流域には、弥生時代の遺跡や古墳、江戸時代に建立された仏閣等の歴史的構造物、さらに野中兼山の水にまつわる遺構など数多くの歴史、文化財が見られる。これらは、物部川と人々との係りの深さ、歴史の長さを示している。このような物部川に対して、豊かな自然環境が次世代に引き継がれるとともに、人と自然の織りなす川の文化が高められ、訪れる人々にさらに広く活用される場となるような期待が増大している。

以上のような状況を踏まえ、物部川の河川空間環境管理計画では、図 7.3.1 に示す事項を基本理念として設定している。

— 清流と歴史の物部川・やすらぎときらめきの川づくり —

1 物部川の表情豊かな自然の継承

高知平野、太平洋、四国山地が織りなす表情豊かな物部川の自然を守り、育て、次世代に引き継ぐ。

2 水と緑にふれあうリフレッシュ空間の創造

変化に富んだ河川景観により人々に愛され親しまれている物部川に、憩いとふれあいのあるいきいきとした水辺空間を創造し、活力ある地域づくりに寄与する。

3 物部川の歴史的遺産の継承

豊かな自然を背景に数多く残されている歴史的遺産と、これをつちかってきた物部川の河川環境を、ふるさとの川として守り、育て、次世代に引き継ぐ。

図 7.3.1 物部川水系河川環境管理基本計画の基本理念

(2) 物部川水系河川環境管理基本計画の拠点地区計画

拠点地区計画では「清流の歴史の物部川・やすらぎときらめきの川づくり」を実現すべく、河川空間利用の中核として、重点的に整備することが望ましい地区を拠点地区として設定している。

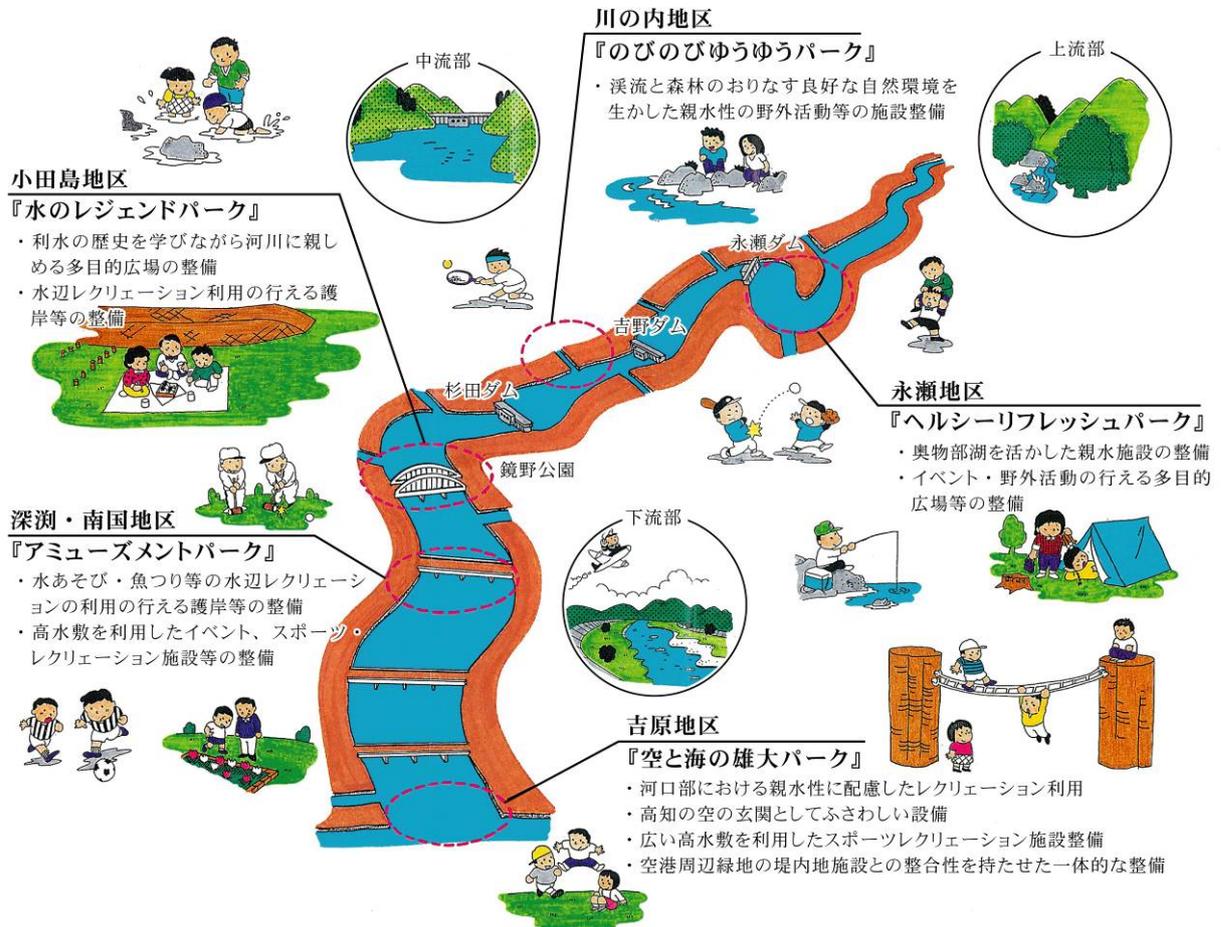


図 7.3.2 拠点地区イメージ図